

た。そのうちに井戸を掘ることを覚えたが、それは獣が嗅覚によって位置を察知し、前足で地面を掘るあの仕草であった。地下水開発の歴史は、井戸位置の選定とさく井技術の発達との歴史であったのである。

人間は嘗って“どのようにして”井戸掘作の適地を選定したのであろうか。泉の起源はギリシャ・ローマの先哲を悩ました問題であった。探査法は、

- (1) 神靈的 (モーゼ、弘法大師)
- (2) 賭博的 (覆物を投げる)
- (3) 呪術的 (water witch 占いの枝)
- (4) 経験的 (山本勘助など)
- (5) 科学的

に分類される。

これらは発展の段階を示すものであるが、現在でも並列的に存在する。

探査によって地点がきまれば、井戸をつくらなければならない。井戸の種類はさく井技術の反映でもある。さく井法は手掘り (digging) と機械掘り (drilling) に分類され、後者は衝撃式 (percussion)、回転式試錐 (rotary)、逆ロータリー式 (reverse rotary) などに分類される。これらについて概説する予定である。

また、浅井戸、深井戸 (ヨゼフの井戸 B.C.1700、サンパトリック井、堀兼井、笠之原井、上総掘り)、横井戸 (カナート、マンボ)、斜井戸 (ハワイ) 等をスライドを用いて説明した。

科学史の問題として(1)技術の同時多発性、(2)理論は頭で技術は手で作られる、(3)技術階梯として低次と高次があるが両者は共存し、優劣はつけ難い。それぞれに存在の理由があることが指摘される。

## 昭和59年度共同研究(A)分担一覧

池上 悟	古墳時代須恵器の研究	浪本勝年	教育課程の歴史と制度に関する研究
沼 義昭	日本における薬師信仰の研究	澤田裕之	わが国における近郊花き園芸地域の形成と構造
清水多吉	フランクフルト学派の研究		

## 昭和59年度共同研究(B)分担一覧

齊藤襄治	
山本澄子	昭和初期における英米文学の受容形態
鏡味国彦	
仁木勝治	